

令和5年度千葉市図書館の評価

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館ビジョン2040」における目標達成に向けた2つの基本目標と施策展開の柱に沿い、令和5年度の図書館評価を示します。

※評価対象：令和5年度、評価実施：令和6年度

基本目標1

特長のある「知の拠点」の実現

施策展開の柱

- 1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進
- 2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築
(多様な主体による知の創出・活用)
- 3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

基本目標2

新たな時代に適応する運営の実現

施策展開の柱

- 1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現
- 2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

評価結果一覧

評価	
A	計画通りに実施でき、一定の成果があった。
B	課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。
C	不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。
—	今後取組事項として、研究・検討している。

全体	項目数	内部評価		外部評価	
	7	A	6	A	6
		B	1	B	1
		C		C	
		—		—	

図書館サービスの基本的な取組事項	項目数	内部評価		外部評価	
	1	B		B	

令和5年度 主要事業	項目数	内部評価		外部評価	
	6	A	6	A	6
		B	0	B	0
		C	0	C	0
		—	0	—	0

施策の柱ごとにおける進捗状況について

区分	
達成	事業量に対し、8割以上進捗しているもの
順調	概ね順調に進捗しているもの（事業量に対し、6割以上進捗しているもの）
遅れ	進捗状況に遅れが出ているもの（事業量に対し、6割未満の進捗であるもの）

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現		進捗状況
1	未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	順調
2	「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築（多様な主体による知の創出・活用）	順調
3	未来を担うこどもたちの読書環境の充実	達成

基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現		進捗状況
1	誰もが利用しやすいサービス環境の実現	順調
2	新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	順調

図書館協議会外部評価部会委員の意見に対する対応

説明	項目数
意見に対する取組みを実施しているもの	7
意見に対する取組みについて検討しているもの	7
未対応のもの	0

図書館サービスの基本的な取組事項

取組説明	内部評価	取組結果	今後の取組み	外部評価	外部評価者のコメント
資料費を有効に活用し、図書館全体としての計画的な収集、適正な管理、迅速な提供及び基本的な資料提供サービスの充実に努めます。	B	【資料の有効活用】 - 中央館・地区館・分館間で地域・行政資料を分担購入や移管を行い、予算の有効活用を図った。 - 利用頻度の低くなった資料の除籍及び所管替えを行い、空いた書架に新刊書等を購入し配架した。 - 寄贈資料を受け入れ、古くなった資料の入れ替えを行った。また、日々のカウンター業務の中で寄贈する利用者との人間関係を培い、継続的な寄贈につなげた。 【資料提供サービスの充実】 - 中央館・地区館職員の合同選定会議や、館内選定会において、利用者の要望に応じた資料の購入や相互貸借等に努めるなど、多岐にわたる利用者の要望に応えた。 - 企画展示に併せて関連する資料の購入を行い、展示・紹介する資料の充実に努めた。また、展示・紹介することによって利用促進を図った。 - 来館者に新刊本をお知らせするため、新刊新着本のリストを作成し、新刊本コーナーで提供した。 【電子書籍】 - 電子書籍サービスについて、提供資料数を11,259点から12,872点に拡充した。 - 学校には、夏休み直前に「すぐる」(学校・保護者間連絡システム)を利用し、電子書籍サービスでの読書を啓発するチラシを一斉メール配信することで利用促進を図った。 - 今年度は6月上旬から7月中旬に大規模校(小中台小学校と花園中学校)でのモデル実証実験を実施。年度末までに学校専用IDを全校に付与し、市内小・中・特別支援学校の全児童生徒が、電子書籍サービスを利用できる環境を整えた。	- 新型コロナウイルス感染拡大による制限が少なくなり、様々な企画やイベント等に取り組んだが、前年度と比較し、新規登録者数、年間貸出利用者率、図書館ホームページアクセス数の項目が減少した。 - 来館者、新規登録者を呼び込むために、おはなし会や主催行事の充実を図りつつ、R5年度実績値が前年度比増となった電子書籍やWEB予約により注力し、利用拡大を図る。 - 図書資料については、利用者の興味関心を広げる企画展示を計画的に実施し、施設の利用につなげていく。 - 資料の充実を図るため、引き続き予算の確保に努める。	B	- 市民1人当たりの貸出数や総貸出数は現状維持となっているが、1年間に図書館を利用した市民の割合が年々減ってきているところを見ると、市民の一部は頻繁に図書館を利用しているが大多数の市民は全く図書館を利用していないという利用傾向が読み取れる。 - 学校以外の機関との連携事業が対前年度比減となっているので、連携事業を増やして図書館利用者の裾野を増やす努力をして欲しい。 - 電子書籍については提供コンテンツ数、貸出点数共に順調に増えているのでこれからも力を入れて取り組んでいただきたい。 - 地域行政資料の収集冊数が増加していることは評価出来る。本学の学生からも地域資料に関するレファレンスがしばしばあり、公共図書館を案内することがあるのでこれからも積極的に収集して欲しい。 - 令和4年度と比べて、来館者数が増加しているのは関係者の努力の成果であると評価したい。その一方で利用者登録者数・新規登録者数が減少しているのは残念である。また、図書資料貸出冊数・年間貸出利用率・市民一人当たりの貸出点数も減少しているのは気になる。デジタル書籍の貸し出し増で補っているのであれば良いのだが。 - 単年度の数字だけで語るのは慎重になるべきであろうが、市民一人当たりの貸出点数が継続的に減少傾向にあるのは心配である。他政令指定都市との比較でも、人口1人当たり資料数の順位に対して人口1人当たり貸出数の順位が低いという傾向がより顕著になっているように見て取れる。今後の図書館のあり方を考えるときに貸出数関連の目標をどのように設定していくのか、さらなる検討をお願いしたい。 - 各図書館、分館、図書室ごとに新刊本の紹介やテーマを設けての書籍の掲示など引き続き工夫をこらされている点は素晴らしいと感じる。また、企画展示にも力を入れていることは評価できる。「知の拠点」を創設していく上では、重要な取り組みであると思う。 - 厳しい財政状況の中で、電子書籍の充実のために各地区図書館の図書資料費がある程度減額されるのはやむを得ないと理解している。ただし、今後電子書籍と紙の書籍とのバランスをどのようにとって行くのか、どこかの時点での各地区図書館の図書資料費の増額は想定されているのか、電子書籍の整備内容に関して千葉市図書館としての独自性や特徴を打ち出すことは考えているのか、知りたいところである。 - 電子書籍サービスに関して、大規模校でのモデル実証実験がスタートしたのは評価できる。ギガタブによる電子書籍サービスの利用は「様々な可能性を感じさせてくれた」という評価があるので、今後も利用しやすい制度の整備、学校教育に寄与するコンテンツの整備に力を入れてほしい。 - 今後、図書資料費の大幅な増額は難しいと思われるので、寄贈による資料受入の重要性は増すのではないだろうか。現在、日常のカウンター業務を通じての人間関係を構築していることが寄贈につながっているのは素晴らしいと考える。寄贈による受入をどのように内部評価しているのか、また今後の受け入れの方向性はどうか知りたいところである。

No.	評価指標	達成目標	R5年度実績	R4年度実績	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績	(コロナ禍前) H30年度実績
図書館サービスの基本的な取組事項	新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む)	対前年度比増	19,492人	19,810人	18,555人	13,452人	18,977人	21,018人
	来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	207.0万人	197.5万人	197.0万人	162.7万人	250.5万人	257.7万人
	年間貸出利用率 (1年間に、図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の 7.5%	市民の 8.5%	市民の 9.8%	市民の 9.0%	市民の 11.4%	市民の 12.1%
	年間受入図書資料数 (公民館図書室での受入を含む)	現状維持	44,239冊 (うち購入 25,560冊 寄贈 18,528冊 その他 151冊)	44,926冊 (うち購入 27,948冊 寄贈 16,788冊 その他 190冊)	47,255冊 (うち購入 28,074冊 寄贈 19,024冊 その他 157冊)	49,429冊 (うち購入 32,175冊 寄贈 17,102冊 その他 152冊)	56,431冊 (うち購入 35,379冊 寄贈 20,878冊 その他 174冊)	56,698冊 (うち購入35,722冊 寄贈20,812冊 その他 164冊)
	図書資料費 (上段:当初予算額、下段:決算額)	現状維持	92,144千円 (うち電子書籍 8,282千円)	96,596千円 (うち電子書籍 8,998千円)	89,137千円 (うち電子書籍 3,000千円)	88,621千円	92,214千円	95,789千円
			82,682千円 (うち電子書籍 7,501千円)	81,051千円 (うち電子書籍 8,998千円)	74,458千円 (うち電子書籍 3,541千円)	76,336千円	82,012千円	83,763千円
	市民一人当たり貸出数 及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む)	対前年度比増	一人当たり 3.9冊 総貸出数 387万冊	一人当たり 4.0冊 総貸出数 388万冊	一人当たり 4.1冊 総貸出数 400万冊	一人当たり 3.51冊 総貸出数 345万冊	一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊	一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊
	WEB予約件数		対前年度比増	105.9万件	104.6万件	101.4万件	93.2万件	102.0万件
	図書館ホームページアクセス件数		対前年度比減	3,581,767件	3,892,532件	4,421,009件	3,597,182件	2,410,879件

No.	評価指標	達成目標	R5年度実績	R4年度実績	R3年度実績
電子書籍	ログイン数	対前年度比増	63,366回	53,957回	41,157回 (R3.7.30～)
	提供コンテンツ数		12,872点	11,259点	8,866点
	貸出点数		20,415点	16,856点	12,518点
	予約点数		6,505点	8,263点	6,904点

令和5年度 主要事業 一覧

■主要事業取組項目

No.	項 目	取組説明	R5年度予算	内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
1	電子書籍サービスの充実	新たな時代の「学び」を支援するため、電子書籍サービスを充実します。	8,282千円	A	・電子書籍サービスについて、提供資料数を11,259点から12,872点に拡充した。 ・学校には、夏休み直前に「すぐる」(学校・保護者間連絡システム)を利用し、電子書籍サービスでの読書を啓発するチラシを一斉メール配信することで利用促進を図った。 ・今年度は6月上旬から7月中旬に大規模校(小中台小学校と花園中学校)でのモデル実証実験を実施。年度末までに学校専用IDを全校に付与し、市内小・中・特別支援学校の全児童生徒が、電子書籍サービスを利用できる環境を整えた。	A	・電子書籍については提供コンテンツ数、貸出点数共に順調に増えているのでこれからも力を入れて取り組んでいただきたい。忙しい社会人も電子書籍の方が馴染みやすいと思うので児童だけでなく大人への広報も積極的に行ってほしい。 ・今後の電子書籍の整備内容に関して千葉市図書館としての独自性や特徴を打ち出すことは考えているのか、知りたいところである。 ・『千葉市の図書館2024(利用統計)』のp.58の「12 電子書籍サービス」の中に次年度以降は経年変化のわかるデータも取り込んでほしい。 ・電子書籍サービスに関して、大規模校でのモデル実証実験がスタートしたのは評価できる。ギガタブによる電子書籍サービスの利用は「様々な可能性を感じさせてくれた」という評価があるので、今後も利用しやすい制度の整備、学校教育に寄与するコンテンツの整備に力を入れてほしい。(再掲) ・また、実証実験で得られた成果(活用事例など)を周知して、各学校での活用意欲を高めるような手立てを検討していただきたい。
2	地域情報サービスの充実	地域情報をインターネット上で閲覧できるシステムを構築し、令和3年3月からデジタル化された資料の公開を開始しており、新たに『千葉市の町名考』をデジタル化し、公開します。	2,873千円	A	歴史的資料である「千葉市の町名考」及び「千葉写真大観」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で閲覧できるようにした。	A	・歴史的資料を残し、広く閲覧可能にする意義は大きいので、今後も継続的な取り組みを期待したい。
3	「千葉市民の知」の計画的な集積と発信	「知」のアーカイブ化に関する計画を策定し、デジタル資料の提供やインタビュー手法を用いて、隠れたエピソードや失われつつある記憶といった「千葉市民の知」の発掘・記録・発信するとともに、これらの情報をレファレンスサービスとリンクした活用を推進し、地域情報サービスの充実を図ります。 地域で活動している郷土史研究家や教員OBなどに依頼してモデル的に地域に関する情報収集を実施し、その結果を検証した上で、収集方針やボランティアの活動を支援する仕組みなどの検討を行い、継続的に機能する体制を構築します。	2,797千円	A	・千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画案を策定し、図書館協議会の了承を得た。 ・オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者に委託して実施した。インタビューについては、町内自治会連絡協議会会長経験者や海辺(検見川の浜)で活動している個人、郷土史研究家など、10件の取材を実施した。 ・メールレファレンスサービス等において、デジタル化した地域資料(千葉市史)について情報提供した。 ・ビジネス支援講座の内容を編集し、アーカイブ配信することを検討したが、編集作業を依頼するボランティアとの調整がつかなかった。引き続き、ボランティアを含む市民協働体制の構築について、検討する。	A	・デジタルアーカイブ化計画案を策定するのは非常に労力が必要であり、策定出来たことは大変評価出来る。 ・千葉市オーラルヒストリーはテーマ及び聞き取りの内容が市民生活に密着した地に足のついたもので、未来へつなぐ「知」の収集・保存という方針に沿ったものになっている。今後は、利活用のさらなる促進を期待したい。また、収集・保存するテーマ及び内容を体系的なものになるように検討を進めていただきたい。 ・ボランティアを含む市民協働体制の構築が難しいのは推察できるが、「市民が支える」という側面は重要だと思うので努力を継続していただきたい。
4	レファレンス機能の充実(オンラインデータベース導入)	市民や企業等からの高度な情報ニーズに対応するため、法律や経済等のオンラインデータベースを新たに導入し、レファレンスの機能の充実を図ります。	2,142千円 【新規】	A	オンラインデータベース(端末2台)を導入し、レファレンスサービスの充実を図った。 (オンラインデータベースの種類:新聞記事、法律、経済、官報、百科事典)	A	・契約として難しいかもしれないが、本館分館の利用者端末で利用者が直接データベースを利用出来るようになるとさらに便利になるので検討して欲しい。 ・オンラインデータベースでのレファレンスサービス利用状況は、統計データとして集計する予定なのか、知りたい。『千葉市の図書館2024(利用統計)』のp.51の「(6)レファレンス件数」のデータとのかかわりで。
5	稲毛図書館の自動火災報知設備改修工事	老朽化した自動火災報知設備の改修を実施します。	9,900千円 (都市局建築部予算)	A	老朽化した自動火災報知設備の改修工事を実施した。 (事業費:6,380千円)	A	・火災設備は人命に関わる重要な設備なので今後もしっかりと点検して欲しい。消火器は利用期限が過ぎやすいので注意して欲しい。
6	花見川図書館花見川団地分館の空調設備改修実施設計業務委託	空調設備の改修にあたり、実施設計を行います。当該施設は築17年を経過しており、空調設備に不具合が発生しております。	4,356 千円 (都市局建築部予算)	A	空調改修設備工事の実施設計を実施した。 (事業費:4,290千円)	A	

取組項目

【基本目標1】 特長のある「知の拠点」の実現

1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

		R5_取組項目	R5_取組結果	担当	個別の 内部評価
取組項目	1	(1)「千葉市民の知」の計画的な集積と発信 ア 「知」のアーカイブ化に関する計画を策定し、デジタル資料の提供やインタビュー手法を用いて、隠れたエピソードや失われつつある記憶といった「千葉市民の知」の発掘・記録・発信するとともに、これらの情報をレファレンスサービスとリンクした活用を推進し、地域情報サービスの充実を図ります。(予算:2,749 [千円]) 【R4 外部評価より】 オーラルヒストリーのインターネット上での閲覧者数のデータは確認できるのだろうか。データがあれば市民の関心の傾向が把握できると思われるので、検討をお願いしたい。 将来的には、オーラルヒストリーのテーマを公募しても良いのではないかと考える。	・千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画案を策定し、図書館協議会の了承を得た。 ・オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等を民間事業者に委託して実施した。インタビューは10件の取材を実施した。(町内自治会連絡協議会会長経験者や海辺(検見川の浜)で活動している個人、郷土史研究家等) ・メールレファレンスサービス等において、デジタル化した地域資料(千葉市史)について情報提供した。	中央	A
	2	【R4 外部評価より】 地域情報アーカイブ化計画の策定ならびにその計画の実行は新たな業務であるので出来れば職員を増やして対応して欲しい。 (2)本市の歴史的文書の整理・保存など ア 本市の歴史的な資料の整理・保存、セミナーや座談会での使用、企画展示その他の効果的な活用について、検討し、実施します。	【デジタル化】 歴史的資料である「千葉市の町名考」及び「千葉写真大観」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)に掲載した。 【地域資料の整理・保存等】 ・各種の地域・行政資料及び地域情報の千葉市関連資料を収集及び保存した。 【企画展示】 ・地域資料の企画展示について、郷土博物館の千葉氏に関する展示に合わせた関連書籍の展示など、博物館と連携した事業を実施した。	全館	A

3	(3)「知」の提供プラットフォーム(基盤)の構築 (「知」の見える化) ア 地域情報をアーカイブ化し、インターネット上で公開します。(予算:2,873[千円])	・歴史的資料である「千葉市の町名考」及び「千葉写真大観」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)に掲載した。(再掲) ・千葉市オーラルヒストリー10件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計36件)	中央	A
4	(4)デジタル・アーキビスト等の専門人材の養成 ア デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について、必要な資格取得の支援などを行い、人材の養成を進めます。	・千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画において、デジタルアーカイブを推進するための人的基盤の整備に関する2026年度までの具体的な方向性(資格取得支援制度の活用、人材公募等)を整理した。 ・千葉市職員の人材公募制度や、資格取得支援助成制度の活用により、資格取得を促すことなどに取り組み、人材の養成に努めたい。	中央	B
5	(5)「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築 ア 地域で活動している郷土史研究家や教員OBなどに依頼してモデル的に地域に関する情報収集を実施し、その結果を検証した上で、収集方針やボランティアの活動を支援する仕組みなどの検討を行い、継続的に機能する体制を構築します。(予算:48[千円])	ビジネス支援講座の内容を編集し、アーカイブ配信することを検討したが、編集作業を依頼するボランティアとの調整が難しく、引き続き、ボランティアを含む市民協働体制の構築について、検討する。	中央	C
6	(6)学習成果などの「市民の知」の発表などに対する支援 ア 地域の歴史などについて、自主的・主体的に研究などを行っている団体への支援内容に関する調査について検討します。	研究を行っている団体への支援内容の調査のためにヒアリングなどを実施や、市民が研究した成果を発表できるようなシステムの構築について、他の自治体の取組み等を研究すること等を検討中である。	中央	B

内部評価	進捗状況	A→3 B→2 C→1
	順調 主な成果等 (1)(5)千葉県図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画案を策定し、図書館協議会の了承を得た。「デジタルアーカイブを推進するための人的基盤の整備」に関する資格取得支援制度の活用、人材公募、国立国会図書館等の研修参加、大学図書館等デジタルアーカイブ機関の視察の2026年度までの具体的な方向性を整理した。 (2)歴史的資料である「千葉市の町名考」及び「千葉写真大観」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で閲覧できるようにした。 (3)千葉県オーラルヒストリー10件について、千葉県地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉県図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計36件)	
外部評価者のコメント	(1)デジタルアーカイブ化計画案の策定については、全く何もなかったところから他の自治体の計画などを参考にして一から作り上げたので大変評価出来る。ただ、計画案の策定はスタート地点であり今後この計画案に沿ってアーカイブ化を進めていくことが重要なのでしっかりと進めていただきたい。 (2) ・高度情報化社会の急速な進展によって「歴史から学ぶ、歴史に学ぶ」ことが重視されにくくなったように感じる。その意味でも、昨年度の千葉市史 通史編(第3巻)に続いて「千葉市の町名考」及び「千葉写真大観」がデジタル化されたことは意義深いと思う ・歴史的資料を残し、広く閲覧可能にする意義は大きいので、今後も継続的な取り組みを期待したい。(再掲) ・博物館と連携しての事業の実施は今後につながる取り組みだと思うので、継続的な検討と実施を期待したい。 ・地域資料の企画展示もぜひ継続的に取り組んでいただきたい。 (3)千葉県オーラルヒストリーを学校教育で活用してもらう方を引き続き検討していただきたい。 (4)デジタルアーキビストなどの専門人材の育成は時間のかかることであり、希望者の発掘も容易ではないであろうが、資格取得後の適切な人材配置と業務の評価の取組も継続的に行っていただきたい。 (5)地域・行政資料や地域情報の千葉市関連資料を収集及び保存は、地味で骨の折れる作業であろうが、「知」の発掘と提供という観点からも重要な業務であるので引き続きの努力をお願いしたい。「地域情報デジタルアーカイブ」の閲覧者数が大幅に増加しているのは、関係者の努力が評価されてのことだと判断する。	

2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

		R5_取組項目	R5_取組結果	担当	個別の内部評価
	7	(1)SNSを活用したイベントの配信 ア 千葉市図書館FacebookやTwitterにより、企画展示、講演会、おはなし会など学びのきっかけとなるイベント情報を配信します。 【R4 外部評価より】 SNSを活用したイベントの配信に取り組まれているが、イベントに限定せず、書籍の話題(特定の書籍を取り上げるのは公的機関として好ましくないであろうが)、寄贈の呼びかけ、図書館周辺の草花の移り変わりなどさらに多様な話題を提供してはいかがか。担当される方は大変であろうが、例えばTwitterの更新はもう少し頻度を上げてよいのではないか。また、イベントの告知だけでなく開催後の報告もしてはいかがか。 【R4 外部評価より】 「学校レファレンスカード」の利用や「どくしよてちょう」の配布及び活用の様子などは、SNSやホームページで発信して広報に努めても良いのではないかと思う。個人情報や肖像権の問題はあるが、せっかくの取り組みなので広く知ってもらうことは大切だと考える。	XやFacebookを活用し、企画展示やイベント等に関し、積極的な情報発信を行った。 今年度は、Xの更新頻度を多くする等、積極的な情報発信に努めたが、イベントをきっかけとする情報発信に留まったため、より多様な情報発信について、職員の負担や公平性の確保に配慮しつつ、検討していく。 「どくしよてちょう」のホームページでの配布や利用案内は実施したが、SNSでの発信は、1投稿あたりの文字数の上限等、見やすい発信に課題があり、未実施となった。引き続き、SNSでの発信を検討しつつ、学校の保護者向け一斉メール(すぐるー)等、より幅広い広報を検討していく。	4	B
	8	(2)学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供 ア 公衆無線LAN(Wi-Fi)環境が整った環境を活用し、市民が集まって学べるスペースや市民間で議論ができるミーティングルームなどの整備について、施設の改修等にあわせ取組みを推進します。	Wi-Fi環境が整ったミーティングルーム等の整備については施設の改修等にあわせて検討する。	中央	—
	9	(3)市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進 ア 市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスの充実を図ります。	【様々な手段でのレファレンス】 ・窓口、電話、メール、手紙によるレファレンスに対応し、市民の課題解決に取り組んだ。 ・参考資料を購入し、参考資料コーナーや書架の充実に努めた。 ・オンラインデータベース(端末2台)を導入し、<u>レファレンスサービスの充実を図った。</u> (オンラインデータベースの種類:新聞記事、法律、経済、官報、百科事典) 【レファレンスのPR】 ・特定のテーマの調べものの際の“調べ方の道案内(パスファインダー)”として、調査に使える基礎資料の一部や調べ方などをホームページで紹介するとともに、館内においてはリーフレットとして配布した。(従来のもをを更新するとともに、新規で1件追加した。) ・レファレンスサービスに関する館内掲示を実施した。 ・図書館ホームページの「調べ物相談(レファレンス・サービス)」のページに地域に関するレファレンス事例を掲載した。(累計36件 ※令和5年度に2件追加。既存事例について必要な時点修正も実施。) 【レファレンスに関する研修】 ・千葉県立図書館など各関係機関の実施する研修に参加し、レファレンススキルの向上に「努めた。	全館	A

取組項目	10	イ 出会いのある図書館利用の促進のため、講座や企画展示などによる情報発信をします。	【講座】 様々な講座やおはなし会を実施した。 (例) ・子ども読書講座 ・絵本講座 ・定例おはなし会や大型絵本・紙芝居によるおはなし会 ・体験型の市民講座(子ども向け科学講座、夏休みお楽しみ教室、秋の工作教室、冬の折り紙教室) ・文化に関する市民講座(寄席、美術講座、郷土文学講座、加曽利貝塚に関する講座) 【企画展示】 様々な企画展示や、タイムリーな話題に対応するミニ展示を実施した。 (例) ・ビジネス展示コーナーでの経営・就職関連資料等の展示 ・加曽利貝塚に関する展示 ・児童展示コーナーでの展示(科学に関する本、平和に関する本、季節に合わせたテーマの本、課題図書、自由研究等の展示、千葉市美術館の展示、生涯学習センターアトリウム展示に合わせた関連児童書の展示) ・子育て応援コーナーを設置し、子育てに関する情報を発信。 ・タイムリーな話題に対応するミニ展示コーナー(育児関係書、七夕、夏休み前からの自由研究、お正月・節分、ひな祭りなど)	全館	A
		【R4 外部評価より】 各地区館や分館が工夫をこらして、様々な講座や企画展示などに取り組まれていることは素晴らしいと評価できる。利用者の反応の良かった企画展示などは、せっかくでなので他館に巡回することはできないだろうか。	講座や企画展示等は、自館の図書をPRし、自館の来館者増につなげる目的があり、他館への巡回の実現には課題がある状況である。各館の講座や企画展示の情報を共有することで、好評であった企画が横展開されるような手法を検討していく。		
			【生涯学習施設との連携】 (公民館) ・こてはし台公民館との共催の市民講座や、同公民館の主催事業に関連する展示を実施するとともに関連資料のリストを作成し講座の際に配布した。 ・土気公民館で、冬の親子おはなし会や、同公民館の主催事業に関連する展示を実施した。 (加曽利貝塚博物館) ・博物館との連携による市民講座 (千葉市科学館) ・わくわく体験教室(小学生向け科学工作教室) ・子ども向けイベント「ミニ太陽系モデルをつくろう」 (埋蔵文化財調査センター) ・児童向けイベント「勾玉づくり」 【教育機関との連携】 ・読書まつりで近隣小・中学校の展示や高校生によるおはなし会を実施した		

11	(4)生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化 ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。	・小・中学校の図書館見学やまちたんけん、職場体験を受け入れた。 ・大学と連携・協力し、学生ボランティアによる「英語で楽しむ親子おはなし会」を実施した。 【公共施設等との連携】 ・千葉市こども家庭支援課主催の展示「もっと知りたい里親制度」に合わせ、里親や家族に関する本の展示を児童フロアで行った。 ・鎌取コミュニティセンターとの共催で、「読書まつり」、「夏の親子おはなし会」を実施した。 ・土気あすみが丘プラザとの共催で、イベント「えほん(読み聞かせ)とおりがみ」を実施した。 【NPO法人との連携】 ・NPO法人と連携してイベントを開催した。(つくってあそぼう算数工作、おもしろ算数と絵本の会)	全館	B
	【R3 外部評価より】 千葉市男女共同参画センター内の情報資料センターとの連携なども検討して欲しい。	男女共同参画課の事業として、男女共同参画センター内の情報資料センターの図書等を活用した親子で参加するブックタイムがあるため、必要に応じ、当取組みとの連携や支援を検討していく。		
12	イ 公民館図書室のサービス向上のため、選書、レファレンス、研修等の支援を行います。	・選書の一助となるよう、図書館で使用した新刊全点案内を毎月送付した。 ・資料充実のため、寄贈資料を未所蔵図書室に送るなどの支援を行った。 ・公民館図書室職員に、業務の基礎学習による知識習得を目的とした初任者向け研修会及び図書修理技術及び接客能力向上を図るため、全体研修会への参加を促した。	全館	A
13	(5)その他の取組み ア 図書館の利用を促進するため、地域での広報活動や、各種メディアを活用した広報活動を積極的に実施します。	・市政だよりへおはなし会等イベント情報を掲載した。 ・生涯学習センター広報紙(まなびの森)へイベント情報を掲載した。 ・図書館だよりへ近隣小学校との連携やレファレンス事例に関する記事を掲載し、また、より多くの方に手に取ってもらえるよう、レイアウトを見直した。 ・ホームページ、Facebook及びXなど、インターネットを通じた広報を実施した。	中央	A
14	イ 図書館が地域の交流の場となるように、読書まつりにおける各種イベントなど、市民の企画・参加による事業を実施します。	読書まつりで市民の企画・参加型イベント等を実施した。 (例) ・地域おはなしボランティア等によるおはなし会、わらべうた、紙芝居の実演 ・期間の過ぎた雑誌の配布 ・千葉市文庫連絡協議会による企画(本にまつわるクイズや本の紹介等を行うコーナーの設置)、としょかんふれんず千葉市による展示を行った。 ・参加型の展示やイベント(図書館クイズ、好きな本を書いて貼るイベント、工作教室など)	全館	A

内部評価	進捗状況 順調	A→5 B→2 →1
	主な成果等 (3) ・オンラインデータベース(新聞記事、法律、経済、官報、百科事典)を導入し、レファレンスサービスの充実を図った。 ・窓口、電話、メールでのレファレンスの対応や、関係機関の実施する研修への参加により、レファレンスサービスの充実に努めた。 ・様々な講座や企画展示を実施した。講座の実施にあたっては、講座に関連するテーマの企画展示を実施し、関連資料の貸出をするなど、利用促進につなげる工夫を行った。 (4)関係機関と連携し、講座や企画展示、おはなし会など、連携先の特徴を活かしつつ、多くの取組みを実施したが、連携回数が前年度比減のため、一層の連携を図る (5)市政だよりなどの広報紙に掲載するとともに、インターネットやSNSを通じた広報を実施し、図書館の利用を促進した。	
外部評価者のコメント	(1)SNSを活用したイベントの配信に積極的に取り組まれていることは評価できる。担当者の負担の問題もあるが、イベントの告知だけでなく、開催後の報告もしてもらえるとより関心をもってもらえると思うのだが、いかがだろうか。 (2)「知」の拠点を目指す上では、市民が集まって学べるスペースや市民間で議論ができるミーティングルームなどの整備は不可欠であろう。検討が何らかの形で結実することを期待したい。 (3) ・オンラインデータベースを導入することでレファレンスサービスも即時に適切な回答が出来るようになったと想像できる。今後はレファレンスについても市内の各機関と連携して図書館の資料も使ったうえでの就労支援など図書館のレファレンスという枠を超えた市民への支援が出来るようになると良い。 ・本年度も各地区館や分館が工夫をこらして、様々な講座や企画展示などに取り組まれていることは素晴らしいと評価できる。 ・レファレンス受付数が3年連続で増加しているのは、担当職員の研修の成果、日々の努力の成果だと思う。ただ、それが図書資料貸出冊数の増加につながっていない(「千葉市の図書館(未定稿)」p.35)のは昨年同様で、残念である。原因の分析をお願いしたい。所蔵資料数の減少との因果関係はないのだろうか。 ・オンラインデータベースの導入によってレファレンスサービスの充実が図られたことは評価したい。実際の利用状況を知りたいところである。 (4)地域の高齢化が進む中で公民館図書室の役割はますます重要になると思う。寄贈資料の配布による支援などはさらに拡充していただきたい。また、公民館図書室職員の研修にも引き続き力を入れていただきたい。 (5)インターネットやSNSを利用した広報も大事だが、大学でも意外とポスターを見てイベントに参加する利用者があるので、市民の目に付くところにポスターを貼るなどわざわざ利用者が見に行かなくても見えるような広報の仕方も検討して欲しい。	

3 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

		R5_取組項目	R5_取組結果	担当	個別の内部評価
	15	(1)計画的なこどもの読書活動の推進 ア こどもたちがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、令和2年度に策定した「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」に基づき取組みを推進します。	・「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」に基づいて事業を実施した。 ・関係部局に対し、計画事業の進捗状況調査を実施し、進行管理を行った。	全館	A
	16	(2)こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実 ア こどもの本を知り、本を手渡す技術を修得するため、必要な研修を実施するとともに、講師として講座事業が実施できるよう、人材の育成を図ります。	・職員及び会計年度任用職員のスキルアップのため千葉県立図書館等の外部研修に参加した。 ・職員を対象に児童サービス研修会を定期的を実施し、職員のおはなし会のスキルアップを図った。 ・会計年度任用職員のスキルアップのため、「会計年度任用職員おはなし研修会」を実施した。	全館	A
	17	(3)こどもの本の充実 ア すべてのこども(乳幼児から青少年)の読書活動を支える資料の充実を図り、読書環境の整備に努めます。	・様々な年齢のこども向け新規図書の購入、古い図書や状態が良くない図書の除籍、買い替えを行い、読書環境の整備に努めた。 ・新刊の情報収集に努め、現物を見て購入検討する等、よりよい資料の収集を行った。 ・児童担当をメインとした館内選書会議を行い、こどもの本の収集の充実を図った。 ・こども向け新書図書の展示や、ブックリスト「よんでみよう」を各年齢に合わせ配架し、おすすめの本を紹介するなど本の紹介等に努めた。 ・新刊の展示・季節の展示を行い、本の紹介に努めた。また、 <u>幼稚園協会からの寄贈本を新刊本の横に展示し、紹介するコーナーを設けた。</u>	全館	A
	18	(4)こどもや保護者を対象とした取組みの充実 ア 本の楽しさを知り、話し手と聞き手のコミュニケーションを図れるおはなし会やわらべうたの会を、定期的の実施するほか、家族や親子で楽しめる会も開催し、家庭での読書活動につなげます。	・年齢別・対象別の定例おはなし会、時季に応じたおはなし会、親子おはなし会を開催した。 ・わらべうたと絵本の会を実施した。 ・こどもが学校休業中に本や図書館に親しむためのイベントを実施した。(「子ども読書講座」、「親子図書館たんけんツアー」、「子ども1日図書館員」、「夏休みお楽しみ教室」) ・ボランティアの協力を得て、紙芝居の実演を実施した。	全館	A
	19	イ こどもたちが、図書館を十分活用し、必要な情報を収集できるよう、図書館の見学会や資料の検索講座などを行うほか、保護者などに対し、こどもの読書の意義及び目的を啓発します。	・親子参加事業を実施した。(読書まつり、わらべうたと絵本の会、時季に合わせた親子おはなし会等) ・学校休業期間中にこどもが本や図書館に親しむための取り組みを実施した。(子ども一日図書館員、各種体験教室) ・小・中学生やPTAを対象に、図書館見学やまちたんけん等の取組みを行った。こうした取組みの際、図書館の利用方法等の説明を行った	全館	A

取組項目	20	ウ こどもが読書に親しむきっかけを作るとともに、家庭での読書の習慣付けを図るため、「読書手帳」を未就学児(年長児)、小学校1年生から6年生に配布します。	・多くの児童生徒に利用してもらえるよう、「どくしょてちょう」を未就学児、小学生全学年に配布した。 R5年4月に年長児用(約11,000人)、小学1～3年生用(約30,000人)、4～6年生用(約30,000人)を配布。	中央	A
	21	エ 新就学児を対象に図書館利用登録の促進を図るため利用申込書を配布します。	小学校の新入学児童向けのファミリーブックタイム事例集を市内全小学校に配布する際に、利用申込書も配布(9,700部)した。	中央	A
	22	(5)移動図書館車の活用 ア 移動図書館車が学校に訪問することで、こどもたちが学校にいながら本市図書館の図書資料に触れる機会の提供について検討します。	児童相談所への訪問や、通町公園でのイベントに参加することで、図書資料に触れる機会を提供した。	中央	A
	23	(6)学校・学校図書館との連携・協力の推進 ア こどもの読書活動を継続的に推進するために、学校と連携し児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、学校への団体貸出や、図書館から職員等が学校に出向いておはなし会等を行います。	・近隣小学校や中学校と連携し、図書館見学、まちたんけん、職場体験の受け入れを実施した。 ・学校への団体貸出を実施した。 ・「読書まつり」において、近隣小・中学校の展示、近隣中学校による発表を行った。 ・学校等の要望を受け、 <u>新しい学校用セットの整備やセット内容の見直し等</u> 、学校用団体貸出資料の充実を図った	全館	B
	24	イ 図書館資料を市内小・中・特別支援学校で活用するための支援として、「学校レファレンス用カード」の利活用の推進を図ります。	学校レファレンス用カードの利用状況についてアンケートを実施した。 令和4年度からと比較すると、利用している学校は増加している。また、複数回の利用のある学校もあり、取組としての有用性は理解されていると考えられる。引き続き学校の要望に応えられるよう、具体的な検討を行っていく。 【利用状況】 R5年度の貸出回数 229回 利用校数 65校 【意見等】 ・(団体貸出のような)手続きなしで借りられるのが、便利。 ・貸出冊数が多いとさらによい。 ・本の予約や置き置きが可能になるとさらによい。	中央	B
		【R3 外部評価より】 「学校レファレンスカード」は要望が多く良い取り組みであるが利用が少なく改善が望まれる。利用冊数を増やすこと。予約して、地区図書館などで受け取りができるようにするなど、利便性の向上を期待する。	教職員の研修等で「学校レファレンス用カード」についての周知を図った。その上で、利用状況を把握することに努めた。今後、具体的な改善策を検討する。		
	25	ウ 学校図書館運営委員会において、選書や運営に関する情報交換を行う等、学校図書館と図書館や公民館図書室が連携してこどもの読書活動の推進を図ります。	・学校への団体貸出を行い、レファレンスや読書活動についての相談や、授業に役立つ資料を紹介した。 ・図書館指導員研修会にて、団体貸出について説明した。また、学校図書館主任協議会において、新たな取組や団体貸出について説明した。 ・団体貸出で来館した教員や学校図書館指導員に、聞き取りやアンケートを取り、現在の団体貸出資料について良い点や改善してほしい点について情報を交換した。 ・図書館で不要になった本を、市内小・中・特別支援学校に提供した。	全館	A

26	(7)「千葉市民の知」の学校教育での活用 ア 収集した「千葉市民の知」を授業で活用する際の支援について検討します。	「千葉市の町名考」及び「千葉写真大観」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)に掲載した。(再掲)令和5年度追加分については、漢字にフリガナをふり、学校の授業で活用できるように工夫を図った。 ・学校に導入された1人1台端末(ギガタブ)の郷土学習のコンテンツとしての利用について、学校のネットワーク環境やデジタルアーカイブ化した資料の充実度等の状況を踏まえつつ、検討を進める。学校に対しては、デジタル化した地域資料についてのPRを積極的に行っていく。	中央	B
	【R3 外部評価より】 千葉市オーラルヒストリーは、どの学年での活用が期待されるのか。ルビがなく小学生には難しく、書誌情報などの参考文献の記載がないので、学習資料にするには対象年齢を考慮し再編集が必要ではないか。	地域学習を始める3年生以上からの活用が期待されるため、令和5年度に作成した分より、小学生には難しい漢字にはルビをふった。		
	【R4 外部評価より】 「千葉市民の知」の学校教育での活用は計画どおり積極的に進めていただきたい。その際、活用方法の研究を教員に委託するとか、オーラルヒストリーに関連する書籍や資料を中央図書館に展示するなどの試みを検討してはどうか。	オーラルヒストリーに関連する書籍を冊子のどこかの頁に参考文献として掲載することなどについて、今後検討したい。		
27	(8)その他の取組み ア 地域おはなしボランティアの育成を図り、協働して、学校、地域、施設などでの活動を進めます。	・地域・近隣施設、保健福祉センター、生涯学習センターでのおはなし会等に地域おはなしボランティアを派遣するための調整を行った。 ・地域おはなしボランティアと協力し、読書まつり、子育てリラックス館や、近隣小学校にて、おはなし会を実施した。 ・地域おはなしボランティアスキルアップ研修を実施し、読み聞かせに関する知識・技術の向上を図った。	全館	A

28	イ 読書習慣を形成する上で、大きな役割を担う家庭での読書活動をすすめるための「ファミリーブックタイム」運動を推進します。また、地域で読書活動を進める地域・家庭文庫などを支援します。	【ファミリーブックタイム】 ・ファミリーブックタイム事例集を各区保健福祉センター(4か月児向け)に7,400部、市内全小学校(新入学児向け)9,700部配布した。また、図書館内で配布や、関連する資料の展示を行った。 ・ファミリーブックタイムのポスターを掲示し、家庭での読書活動推進を図るための啓発活動に取り組んだ。 【その他図書館における取組】 ・児童フロアに地域文庫等の紹介コーナーを設置した。 ・地域・家庭文庫からのリクエストを参考に団体貸出用図書を購入した。 ・各年齢に合わせた「よんでみよう」を図書館ホームページに掲載した。乳幼児向け・幼児向けについては、館内配布した。 ・「読書まつり」において、千葉市文庫連絡協議会による企画を行った(大人のためのおはなし会、本にまつわるクイズや本の紹介等を行うコーナーの設置) 【他部署との連携】 ・幼保支援課が作成したイクメンハンドブック(育男手帳)に、赤ちゃんへの読み聞かせの準備として特に読んでほしい本を掲載した。	全館	A
29	ウ 子育て支援施設、生涯学習施設その他で行われるこどもの読書活動推進にかかわる事業について、連携・協力します。	【地域おはなしボランティアの派遣】 依頼のあった施設へ地域おはなしボランティアを派遣した。(公民館の育児サークル、子育てリラックス館の育児サークル) 【親子おはなし会】 近隣のコミュニティセンター(高洲コミュニティセンター、鎌取コミュニティセンター、土気あすみが丘プラザ)等と連携し、親子おはなし会を実施した。	全館	B
30	エ 図書館業務の体験学習の機会を設けます。また、司書過程の学生の受け入れ、インターンシップ実習、ボランティア体験の受け入れを行います。	【職場体験】 中学校の職場体験を受入した。 【子ども一日図書館員】 夏休み期間中に小学3年生を対象とした「子ども一日図書館員」を実施した。 【司書課程の学生の受入】 要望のあった大学1校から、インターンシップ実習の受入を行った。	全館	A
	【R4 外部評価より】 児童・生徒の職場体験を継続的に実施していることは評価できる。学校との連携の観点から、教員の初任者研修や経験者研修の中の体験研修の受け入れも組織的に検討しても良いのではないか。	R5年度は教員の経験者研修の中の社会体験研修の受け入れを実施した。今後は、教育センター等と連携して、教員向けの研修の充実について検討していく。		

進捗状況		A→12 B→4
達成		
内部評価	主な成果等	
	(3) ・児童担当をメインとした館内選書会議を行い、こどもの本の収集の充実を図った。 ・幼稚園協会からの寄贈本を新刊本の横に展示し、紹介するコーナーを設けた。 ・「児童(小学生)一人当たりの児童用図書の貸出冊数」が前年度比増となったため、引き続き、年齢と関心にあった資料の充実・提供や、YAコーナーの充実などにより、読書環境の整備に努める。	
外部評価者のコメント	(4) ・新型コロナウイルス感染拡大によるイベント等の制限が少なくなったため、親子で参加できるイベントをはじめとする「おはなし会等の開催回数及び参加者数」が大幅に増加した。	
	(6) ・学校等の要望を受け、新たな学校用セットの整備や、セット内容の見直しを行い、学校用団体貸出資料の充実を図ったが、「団体貸出による児童図書の提供数」が前年度比減であるため、引き続き、団体貸出用資料の充実や、図書館主任研修会等で団体貸出について説明を行うなど学校に対する団体貸出の利用の働きかけを行う。 ・「学校レファレンスカード」について、令和4年度と比較すると、利用している学校は増加している。引き続き、学校の要望に応じた具体的な検討を行っていく。	
	(7) ・オーラルヒストリーの令和5年度追加分については、漢字にフリガナをふり、学校の授業で活用できるように工夫を図った。 ・ギガタブの郷土学習のコンテンツとしての利用について、学校のネットワーク環境やデジタルアーカイブ化した資料の充実度等の状況を踏まえつつ、検討を進める。	
	(4) ・子どものうちに読書習慣をつけることは非常に重要なので小学校と連携した取組や親子で参加出来るイベントを積極的に行っており評価出来る。 ・図書館側の負担は大きいのであろうが、子ども一日図書館員、各種体験教室、図書館見学やまちたんけん等の取組みは図書館利用のきっかけづくりとしては大変有効だと思う。また、保護者も対象した取組みも今後も継続・発展させていってほしい。	
	(6) ・オランダなどでは赤ちゃんが生まれると図書館へのインビテーションカードや絵本を送ったり、0歳児検診でブックスタートパックを渡すというようなことが行われており、図書館単独ではなかなか難しいと思うが市としてそのような事業が出来ると良い。 ・学校との連携は、読書好きの子ども達を育てていく上で大変重要だと考える。様々な連携の努力がなされていることは高く評価できる。 ・「学校レファレンスカード」の利用や「どくしょてちょう」の配布及び活用のあり方について、他校でも参考になるような事例を発表・報告できる場を模索していただきたい。せっかくの取り組みなので広く知ってもらうことは大切だと考える。	
	(7) ・オーラルヒストリーの漢字にルビをふっていただいたのはありがたい。学校でのギガタブでの活用等、せっかくの資料なので活用方法も学校と連携して研究していただきたい。 ・「千葉市民の知」の学校教育での活用は計画通り積極的に進めていただきたい。また、オーラルヒストリーに関連する書籍を冊子のどこかの頁に参考文献として掲載することなどについて検討を進めるということなので、期待したい。	
	(8)本年度、教員の経験者研修の中の社会体験研修の受け入れを実施されたことは有意義だと感じる。今後も、教員向けの研修の充実について検討をお願いしたい。また、各学校の図書館担当者との連携のあり方も模索していただければ。	

【基本目標2】 新たな時代に適応する運営の実現

1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

		R5_取組項目	R5_取組結果	担当	個別の内部評価
	31	(1)利便性の高い場所へのサービスポイントの設置 ア 利用者の利便性を高めるため、駅前の商業施設などに予約本の受取返却ができるサービスポイントの設置について、施設整備との整合を図りながら検討します。	R6.1月より、美浜文化ホールに新たな返却ポストを設置し、サービスを開始した。	中央	A
	32	イ 図書館施設が近くにない地域などに対し、移動図書館車による図書館サービスを提供します。	市内26カ所のステーションへ、月2回の指定日に巡回し、貸出等のサービスを提供した。	中央	B
	33	(2)開館日・開館時間の最適化 ア 利用者の利便性を高めるため、地域の実情に即した開館日・開館時間の最適化について、新たな生活様式への対応も取り入れながら検討します。	・利用者の利便性を高めるため、開館日・開館時間の最適化について、新たな生活様式への対応も視野に入れて検討した。 ・ <u>若葉図書館の再整備において、図書館の開館時間外でも利用可能な予約図書受取りサービス(公民館開館時間21時まで)について、示した。</u>	中央	—
	34	(3)インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備 ア 「図書館利用に何らかの障害がある人すべて」に対して、資料を利用する上での障害を、対応機器の整備や人的配慮などにより取り除き、情報提供に努めます。	・ <u>新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止していた対面音訳サービスを再開した。</u> ・大活字本、点字付き絵本、視聴覚図書(朗読CD)、DAISY図書(デジタル録音図書)といった高齢者や視覚に障害がある利用者に配慮した資料を収集した。 ・来館することが困難な身体に障害がある利用者に対して自宅配本サービス(月2回)を実施した。 ・自宅配本サービス訪問時に、新刊新着案内を配布し、予約サービスの向上を図った。 ・視覚障害等により活字での読書が困難な利用者に対し録音図書等の郵送貸出を行った。 ・障害者サービス研修会及び音訳研修会を行った。	全館	B
	35	イ 日本語以外の言語を母語とする市民のニーズを把握し、中央図書館を中心に、外国語資料の収集・提供や地域の中で生活する上で必要な情報の提供に努めます。	・児童向け外国語資料の購入 R5年度:14冊 ・外国語を学ぶための資料の収集に努めた(英語・韓国語・ドイツ語・ベトナム語・イタリア語・ロシア語・中国語・スペイン語・フランス語)。 ・こども室内に外国語(英語)の絵本のコーナー設けている。 ・リクエストに応じ英語の図書を3冊購入し、展示した。	全館	A
	36	(4)自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化 ア 利用者の利便性を高めるため、ICTを活用したサービスを提供します。(ICタグ、自動貸出・返却機等の導入等)	・貸出サービスのセルフ化を図るため、新花見川図書館のオープンに合わせ、自動貸出機などを設置した。 ・施設の再整備に併せたICTを活用したサービスの導入を検討し、若葉図書館の再整備において、自動貸出機、自動返却機、予約図書受取室の設置について示した。	中央	A

取組項目	37	(5)情報環境の整備 ア 市民や企業等からの高度な情報ニーズに対応するため、法律や経済等のオンラインデータベースを新たに導入し、レファレンスの機能の充実を図ります。(予算:2,142[千円])	・オンラインデータベース(端末2台)を導入し、レファレンスサービスの充実を図った。 (オンラインデータベースの種類:新聞記事、法律、経済、官報、百科事典)(再掲)	中央	A
		【R2 外部評価より】 すべての図書館公民館にWi-Fiが整備されたことは評価するが、タブレットの貸し出しや利用者講習などがあれば、利便性が高まるのではないかと。 【R4 外部評価より】 電子書籍用のタブレット端末等を用意し、館内利用限定で端末を貸し出して今まで電子書籍を利用したことのない利用者に体験してもらうということを試行しても良いかもしれない。	・施設の再整備に併せて、ICTを活用したサービスの導入を検討し、若葉図書館の再整備において、パソコンやタブレット等の情報端末を設置し、従来の図書資料に加え、電子書籍・デジタルアーカイブなどのデジタル情報サービスを利用できる環境の整備について、示した。		
	38	(6)電子書籍サービスの充実 ア 新たな時代の「学び」を支援するため、電子書籍サービスを充実します。(予算:8,282[千円])	・提供資料数を11,259点から12,872点に拡充した。 ・学校にもギガタブへの電子書籍の利用をチラシで啓発した。	中央	A
		【R4 外部評価より】 紙の書籍よりも電子書籍の方が1タイトルあたりの金額が高いため、今までと同じ資料費で電子書籍を増やすとタイトルは減ることになってしまう。電子書籍を購入するための資料費を別名目にするなどして予算確保に努めてほしい。コンテンツの充実や、紙の書籍との割合について、市民のニーズを踏まえて予算の配分等検討していただきたい。	電子書籍を購入、レンタルするための費用は紙の書籍とは別費目となっており、引き続き市民ニーズを踏まえた電子書籍コンテンツの充実を図るため予算確保に努める。		
		【R4 外部評価より】 学校現場において、電子書籍やデジタルアーカイブ化された豊富な資料にギガタブを使ってスムーズにアクセス・利用できるようになると、朝読書や、様々な授業の工夫が考えられ、児童生徒の読書への関心を高めるきっかけや、知識・学力の向上に大いに寄与すると考える。一方、図書館の利用登録をしていない児童生徒が多いため、利用登録なしでも電子書籍を活用できる体制づくりを検討されたい。	市内小中学校の全児童生徒が「千葉市電子書籍サービス」を利用できる環境を整えた。今後は、教職員の研修等で「電子書籍サービス」についてさらなる周知を図るとともに、学校での活用状況を把握していく予定である。		

39	(7)利便性の高い利用認証システムの調査研究 ア 市民が「知の拠点」で提供するサービスを利用するに当たって必要となる利用認証に関しては、認証技術の高度化を踏まえ、利便性の向上に資する方法などについて調査研究を進めます。	現状・課題を整理し、利用認証システムについて調査研究をおこなっていく。	中央	—
40	(8) その他の取組み ア 利用者にとって、見やすく、使いやすい図書館環境を整えとともに、さまざまな危機事案に適切に対応できる体制を整えます。	【提示】 ・掲示物を見やすい内容とし、館内の環境整備を図った。 ・利用マナー向上を促す掲示を行った。 【書架】 ・書架の面展示を実施した。(書架ごとのおすすめ本等) ・地域特性として、利用の多い文庫コーナーを拡充した。 ・極度に傷んだ資料の除籍や、利用の少ない資料を閉架に移動するなど、書架に適度な空間が生まれるよう整理した。 ・利用者の利便性の向上や、図書の落下防止のため、書棚の最上段及び最下段の資料を出来るだけ取りやすく見やすい棚へ移動した。 ・一部館で館内で選んだ資料や荷物を入れて館内をまわれるショッピングカートを導入した。 【危機事案対策】 ・火災事故発生を想定し、防災訓練を行った。 ・館内見回りの強化と、利用者への声掛けをした。	全館	A
41	イ 市民の図書館利用を促進するため、積極的な広報活動を行います。	様々な媒体により、イベント情報や資料の紹介等の情報発信を行った。 【媒体】 図書館ホームページ、千葉市ホームページ、市政だより、図書館だより、SNS(X、facebook)ポスター、チラシ 【イベント情報】 企画展示、おはなし会、市民講座 等	全館	A
42	ウ よりよい図書館運営を図るため、多くの市民のご意見を伺う機会を設けます。	・図書館ホームページの「お問い合わせメールフォーム」、館内常設の「意見箱」や「市長への手紙」に寄せられた意見等について、図書館運営の改善に向けた基礎資料とするとともに、回答を希望する利用者への回答を行った。 ・市図書館窓口配布及びWEBで千葉市図書館利用アンケート調査を実施した。(図書館サービス満足度 95.6%) ・図書館ホームページについて利用者の要望に応じ、対応可能な部分(利用案内等)の加筆・修正を行った。	全館	A

	進捗状況 順調 主な成果等 (1) ・R6.1月より、美浜文化ホールに新たな返却ポストを設置し、サービスを開始した。 (3) ・新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止していた中央図書館の対面音訳サービスを再開した。 ・サービス向上を図るため、障害者サービス研修会及び音訳研修会を行った。 ・「図書館利用に障害のある方への情報提供」が前年度比減となったが、引き続き、大活字本や点字付き絵本、視聴覚図書(朗読CD)、DAISY図書(デジタル録音図書)などの充実や、自宅配本サービス訪問時に、新刊新着案内を配布するなど、サービスの向上を図った。 (4) ・若葉図書館の再整備において、自動貸出機、自動返却機、予約図書受取室の設置について示した。 (5) ・図書館におけるレファレンス機能の充実のため、有料オンラインデータベースを導入した。 ・貸出サービスのセルフ化を図るため、新花見川図書館のオープンに合わせ、自動貸出機などを設置した。 ・若葉図書館の再整備において、パソコンやタブレット等の情報端末を設置し、従来の図書資料に加え、電子書籍・デジタルアーカイブなどのデジタル情報サービスを利用できる環境の整備について、示した。 (6) ・電子書籍の提供資料数を11,259点から12,872点に拡充した。 ・電子書籍のログイン数、提供コンテンツ数、貸出点数が前年度比増となった。 ・市内小中学校の全児童生徒が「千葉市電子書籍サービス」を利用できる環境を整えた。今後は、教職員の研修等で「電子書籍サービス」についてさらなる周知を図るとともに、学校での活用状況を把握していく予定である。 (8)千葉市図書館利用者アンケートにおける、サービスの満足度は95.6%と、昨年と同様に高水準である。	A→8 B→2 →2
内部評価		
外部評価者のコメント	(1) ・移動図書館車による図書館サービスは、地域の高齢化が進行する状況下では大変有用な取り組みであると思う。財政的な問題もあるだろうが、サービスのレベルを維持する努力を継続していただきたい。 ・返却ポストの増設は利便性の向上に寄与すると思われるが、実際の利用状況や運営上の課題について知りたいところである。 (2)忙しい社会人にとっては開館時間外に予約図書が受け取れるというのは非常にありがたいサービスで評価出来る。 自動貸出機はいまや図書館では当たり前になっており、カウンターの人数も削減出来職員の負担も軽減するので利用の多い本館でも早急に導入して欲しい。 (3)全体として、様々なサービスの提供を発案・実施して誰でも利用しやすい環境を整える努力をされていることは評価できる。インクルーシブな観点からサービスを考えていくことは重要だと考える。 (6) ・図書館の今後のあり方を考えると、市民の中のどのような年代、どのような層の利用を拡大しようとするコンセプトを打ち出すのか、限られた予算の配分もその文脈の中で検討していただきたい。電子書籍の整備内容に関しては千葉市図書館としての独自性や特徴を打ち出すことは考えているのか、知りたいところである。 ・児童生徒の読書活動推進に向け、学校図書館と図書館や公民館図書室との連携を引き続き図っていききたい。市内小中学校児童生徒が「千葉市電子書籍サービス」を利用できる環境が整ったことについては、教職員の研修等の機会をとらえて図書館からの情報発信をお願いし、「電子書籍サービス」についてさらなる周知を図っていききたい。	

2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

		R5_取組項目	R5_取組結果	担当	個別の内部評価
	43	(1)図書館職員の知識経験を活かす効果的な配置と人材の育成 ア 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。	・新任図書館職員に対し、業務の基礎学習による知識習得を図るため、初任者研修を実施した。(参加者33人)。 ・図書館職員(会計年度任用職員を含む)を対象に、第1回目は図書修理技術の習得を図るため、第2回目は接遇の質を高めるため、全体研修会を実施した。(参加者計31人) ・図書館業務に関する知識習得を図るため、外部の研修に参加した。(県立中央図書館主催のレファレンス研修会など 研修回数27件、受講者数34人)	中央	A
	44	(2)中央図書館の機能強化 ア 司書等の専門分野を特定するとともに、その分野における能力開発を進め、市民等からの高度な情報ニーズに的確・迅速に対応できる人材、知的交流をファシリテートできる人材の養成について検討します。	・<u>千葉県図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画(第1次)において、「デジタルアーカイブを推進するための人的基盤の整備」に関する資格取得支援制度の活用、人材公募、国立国会図書館等の研修参加、大学図書館等デジタルアーカイブ機関の視察の2026年度までの具体的な方向性を整理した。(再掲)</u> ・令和4年度より、千葉県職員資格取得支援助成制度の対象資格にデジタルアーキビストを盛り込み、資格取得支援に向け、周知を図った。 ・千葉県職員の人材公募制度や、資格取得支援助成制度の活用により、資格取得を促すことなどに取り組み、人材の養成に努めたい。	中央	B
	45	(3)地区図書館・地区図書館分館の再編 ア 地区図書館・地区図書館分館の再編について施設の再整備に合わせ検討します。	図書館機能のサービスについて、現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。	中央	—
	46	(4)図書資料等の保存・物流機能の一元化 ア 図書資料の物流機能の拡大や施設価値の最大化のため、図書資料の保管機能と物流機能を一元的に担う新たな拠点を整備することについて、図書館利用者や地元住民などの意見を聴取しながら、具現化に向けて検討します。	現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。	中央	—
	47	(5)図書館施設の老朽化への対応 ア 「千葉県公共施設等総合管理計画」が示す基本方針及び資産の総合評価の結果の見直し方針などを踏まえ、利用ニーズの動向や地域に必要な「知の拠点」としての機能などを整理した上で、学校等との複合化や施設規模のコンパクト化、拠点性のある商業施設への移転の可能性などについて検討を行い、適切に対応します。	・<u>若葉図書館の再整備の計画を取りまとめた。</u> ・<u>美浜図書館打瀬分館にて、空調設備改修工事を実施した。</u> ・<u>稲毛図書館にて、自動火災報知設備の改修工事を実施した。</u> ・<u>花見川図書館花見川団地分館にて、空調改修設備工事の実施設計を実施した。</u>	中央	A

取組項目	48	イ 若葉図書館は千城台南小学校の跡地に移転し、同じく移転をする千城台公民館との複合施設として整備します。整備にあたっては、市民、利用者のニーズを把握するために、令和4年度に実施した市民ワークショップや利用者アンケートの意見・要望を取り入れながら、複合施設の基本計画に可能な限り反映させながら進めていきます。	<u>市民ワークショップや利用者アンケートを踏まえ、若葉図書館再整備の計画を取りまとめた。</u>	中央	A
	49	(6)民間機能の活用 ア サービスポイントとして再整備した施設の運営については、庁内関係部署や関係機関との協議を行った上で、民間機能を活用した運営について慎重に検討します。	民間機能の活用を進めるにあたっては、関係部局や関係機関と協議を行った上で、慎重に検討していく。	中央	—
	50	(7)運営資金を確保する新たな手法の検討 ア 運営資金の確保に努めるため、予算対応を行うとともに、寄付金受入や募金箱の設置及び雑誌カバーを活用した新たな広告事業等による広告料、地元企業などからの支援やクラウドファンディングなど、新たな手法について検討します。	・図書資料費(R6予算)の確保については、厳しい財政状況下において可能な限りの予算確保に努めた。 予算額:94,428千円(前年比142千円増) ・図書資料の整備に充てるため寄附金の受入や募金箱を設置し、資料費の確保に努めた。 *寄附金収入(R5決算見込):1,311,159円(前年比 1,034,428円増) ・広告料収入を確保するため、民間事業者による、ホームページバナー広告のほか、雑誌カバー等への広告を実施した。 *広告料及び目的外使用料(R5決算見込):1,110千円(前年比 132千円増)	中央	A
	51	(8)関係機関との連携 ア 市民の持つ様々な技術、知識、経験をボランティアとして、図書館サービスに資することで、豊かな体験ができる活動の場を増やします。	移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。	中央	A
	52	イ 図書館相互間、地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体などとの協力を推進します。	・市内未所蔵資料について、県内他市図書館から相互貸借により取り寄せ、利用者に提供した。 ・利用者の希望資料が、県内他市図書館に所蔵がない場合は、国立国会図書館や県外図書館に所蔵確認し、資料を提供できるよう努めた。 ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会事業等により、千葉市内の図書館施設との連携を図った。 ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会HPに加盟館のイベント情報などを掲載するなど、加盟館の情報発信に努めた。 【NO11の一部再掲】 (生涯学習施設、公的機関、各種団体との協力) 【生涯学習施設との協力】 ・加曽利貝塚博物館との市民講座の実施 ・千葉市科学館とのわくわく体験教室等の実施 ・埋蔵文化財調査センターとの勾玉づくりイベントの実施 ・こてはし台公民館との市民講座等の実施 ・土気公民館との冬の親子おはなし会等の実施 【公共施設等との協力】 ・千葉市こども家庭支援課との事業に合わせた里親や家族に関する本の展示の実施 ・鎌取コミュニティセンターとの読書まつり等の実施 ・土気あすみが丘プラザとの「えほん(読み聞かせ)とおりがみ」の実施 【各種団体との協力】 ・NPO法人とのイベントの実施	全館	A

	53	(9)施設名称の検討 ア 市民と「知の拠点」との距離感を縮め、また、「知」の創出への参加意識を醸成するため、すべての市民の「知の拠点」に相応しい名称や愛称などについて検討します。	施設名称等については、施設の再整備に併せて、公共施設名称設定指針に基づき、検討していく。	中央	—
	54	(10)その他の取組み ア 図書館運営に多様な市民の意見を反映させるため、図書館協議会に、公募による委員を登用します。	2人の公募委員を含めた10人の委員を委嘱している。	中央	A
内部評価	進捗状況 順調 主な成果等 (1)図書館職員の専門性を高める研修の実施や、県立中央図書館などが主催する外部の研修に参加した。 (2)千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画(第1次)において、「デジタルアーカイブを推進するための人的基盤の整備」に関する2026年度までの具体的な方向性を整理した。 (5)施設の老朽化への対応として、若葉図書館の再整備の計画を取りまとめや、美浜図書館打瀬分館(空調設備)・稲毛図書館(自動火災報知設備)での改修工事等を行った。 (7)図書資料費については、厳しい財政状況の中、可能な限りの予算確保及び、寄付金受入などの外部資金を確保し、予算獲得のための取組みを行った。 (8) ・移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。 ・本市図書館が所蔵していない資料は、図書館間の相互貸借等により、市民が必要とする資料を提供できるように努めた。 ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会により、地域の図書館が館種を超えて連携・協力をし、図書館サービスの向上を図った。				A→7 B→1 —→4
	(1)正規職員の司書有資格者は依然として低いので、なるべく司書有資格者を配属させたり働きながら司書資格を取れるように便宜を図るなど司書有資格者の比率を上げるよう努力して欲しい。 (2) ・図書館職員の研修を継続的に実施されていることは評価できる。今後も、専門性を高めるための研修等に積極的に取り組んでいただきたい。 ・千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画(第1次)においては、デジタルアーキビストの養成は重要な柱と位置づけられると思う。様々な難しさはあるだろうが、内部人材の育成に継続的に取り組んでいただきたい。 (5) ・市内で図書館空白地域が出ないよう市民のアクセスなどを考慮して分館の配置や移動図書館のアクセスポイントの見直しを行って欲しい。 ・若葉図書館の複合施設としての整備は、地区館としての機能と規模を維持できるように進めていただきたい。その際、花見川図書館の運営状況も踏まえて、様々な角度からの検討をお願いしたい。				
外部評価者のコメント					

No.	評価指標	達成目標	R5年度実績	R4年度実績	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績	(コロナ禍前) H30年度実績
図書館サービスの基本的な取組事項	新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む)	対前年度比増	19,492人	19,810人	18,555人	13,452人	18,977人	21,018人
	来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	207.0万人	197.5万人	197.0万人	162.7万人	250.5万人	257.7万人
	年間貸出利用率 (1年間に、図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の 7.5%	市民の 8.5%	市民の 9.8%	市民の 9.0%	市民の 11.4%	市民の 12.1%
	年間受入図書資料数 (公民館図書室での受入を含む)	現状維持	44,239冊 (うち購入 25,560冊 寄贈 18,528冊 その他 151冊)	44,926冊 (うち購入 27,948冊 寄贈 16,788冊 その他 190冊)	47,255冊 (うち購入 28,074冊 寄贈 19,024冊 その他 157冊)	49,429冊 (うち購入 32,175冊 寄贈 17,102冊 その他 152冊)	56,431冊 (うち購入 35,379冊 寄贈 20,878冊 その他 174冊)	56,698冊 (うち購入35,722冊 寄贈20,812冊 その他 164冊)
	図書資料費 (上段:当初予算額、下段:決算額)		92,144千円 (うち電子書籍 8,282千円) 82,682千円 (うち電子書籍 7,501千円)	96,596千円 (うち電子書籍 8,998千円) 81,051千円 (うち電子書籍 8,998千円)	89,137千円 (うち電子書籍 3,000千円) 74,458千円 (うち電子書籍 3,541千円)	88,621千円 76,336千円	92,214千円 82,012千円	95,789千円 83,763千円
	市民一人当り貸出数 及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む)	対前年度比増	一人当たり 3.9冊 総貸出数 387万冊	一人当たり 4.0冊 総貸出数 388万冊	一人当たり 4.1冊 総貸出数 400万冊	一人当たり 3.51冊 総貸出数 345万冊	一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊	一人当たり 4.58冊 総貸出数 448万冊
	WEB予約件数		対前年度比増 105.9万件	対前年度比増 104.6万件	対前年度比増 101.4万件	対前年度比増 93.2万件	対前年度比増 102.0万件	対前年度比増 102.0万件
	図書館ホームページアクセス件数	対前年度比減	3,581,767件	3,892,532件	4,421,009件	3,597,182件	2,410,879件	2,410,879件
電子書籍	ログイン数	対前年度比増	63,366回	53,957回	41,157回 (R3.7.30～)	—	—	
	提供コンテンツ数		12,872点	11,259点	8,866点	—	—	
	貸出点数		20,415点	16,856点	12,518点	—	—	
	予約点数		6,505点	8,263点	6,904点	—	—	
2	地域行政資料の収集冊数 (公民館図書室での収集冊数を含む)	現状維持	3,702冊	2,953冊	3,454冊	3,795冊	3,509冊	
9	レファレンス受付件数	対前年度比増	82,169件	77,588件	74,149件	67,292件	90,113件	
11	連携事業等実施数 (学校以外の機関(保育所・幼稚園等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数)	対前年度比増	32件	43件	19件	9件	236件	
14	一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	19回 478人	17回 315人	14回 224人	13回 192人	25回 843人	
17	児童(小学生)一人当たりの児童用図書の貸出冊数	対前年度比増	32.32冊	31.74冊	32.21冊	25.58冊	31.58冊	
19	おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度比増	798回 13,870人	621回 4,880人	602回 3,826人	241回 1,805人	772回 9,585人	
23	学校等関連施設と連携事業を行った回数 (図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数)	対前年度比増	167回	167回	145回	151回	449回	
	団体貸出による児童図書の提供数	対前年度比増	11,205冊	12,891冊	15,707冊	24,183冊	20,909冊	
27	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度比増	41回 122人	30回 74人	12回 49人	5回 20人	89回 271人	
34	図書館利用に障害のある方への情報提供	対前年度比増	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,051点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,339点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,560点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,154点	対面音訳件数 14件 貸出冊数 7,414点	
42	千葉市図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	現状維持	満足 57.30% やや満足 38.30% 計95.6%	満足 59.3% やや満足 35.2% 計94.5%	満足 58.6% やや満足 36.3% 計94.9%	満足 54.5% やや満足 38.7% 計93.2%	満足 53.8% やや満足 41.1% 計94.9%	
43	職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	現状維持	44回 延べ 223人	32回 延べ 221人	33回 延べ 261人	26回 延べ 146人	65回 延べ 414人	
43	司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	56.8% 正規職員 22.3% 会計年度任用職員(2級) 100%	51.1% 正規職員 20% 会計年度任用職員(2級) 100%	55.9% 正規職員 23.5% 会計年度任用職員(2級) 100%	54.2% 正規職員 21.6% 会計年度任用職員(2級) 98.7%	51.9% 正規職員 20.8% 会計年度任用職員(2級) 94.8%	
52	図書館間相互貸借資料数	現状維持	借受8,392冊	借受 8,164冊	借受 8,533冊	借受 6,536冊	借受 7,476冊	
		対前年度比増	貸出8,200冊	貸出 8,145冊	貸出 7,984冊	貸出 6,888冊	貸出 9,378冊	

評価総評

内部評価				
【総論】				
・総合的には、一定の業務水準を確保することができたと考える。 ・令和4年度と比較し、おはなし会等の開催回数及び参加者数が大幅に増加した点等が影響し、来館者数の増加を実現できたが、年間貸出利用率や貸出点数が減少したため、利用者のニーズに沿った資料をPRする等、貸出点数の増加に向けた取組みを進めている。 ・千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画案を策定した点は評価できると考える。当計画の推進に向け、引き続き、千葉市地域情報デジタルアーカイブのコンテンツの充実を図るとともに、デジタルアーキビストといった専門的人材の確保や、ボランティアとの市民協働体制の構築等、検討していく。 ・学校と連携した様々な取組みを実施したが、引き続き、学校図書館への団体貸出等による支援や、デジタルアーカイブ化した資料の学校での活用の検討等、学校との一層の連携を図っていく。 ・老朽化への対応について、予算の範囲内で適切な対応ができたと考える。引き続き、財政部や建築部と協議しながら、適切な対応を行っていくとともに、施設の再整備の際には、自動貸出機等の導入を検討し、利便性の向上を図っていく。				
【各論】				
項目			主な成果	今後の課題
図書館サービスの基本的な取組事項			・前年度から「来館者数」、「電子書籍の利用数(ログイン数、提供コンテンツ数、貸出点数)」、「Web予約件数」が増加した。 ・電子書籍サービスについて、提供資料数を11,259点から12,872点に拡充した。また、大規模小中学校でのモデル実証実験の実施に加え、学校専用IDを全校に付与し、市内小・中・特別支援学校的全児童生徒が、電子書籍サービスを利用できる環境を整えた。	・「来館者数」等が増加した一方、「年間貸出利用率」が減少しており、利用者のニーズに沿った資料をPRする等、貸出点数の増加に向けた取組みを進めていく。また、1年間に図書館を利用した市民の割合が減少し、図書館利用者の固定化が進んでいるため、若年層を中心に、新たな利用者層の獲得に向けた取組みを検討していく。 ・電子書籍サービスは、導入から約3年が経過し、本市図書館の貸出サービスにおいて、一定の役割を担いつつあるため、電子書籍の貸出点数等を統計「千葉市の図書館」の項目に含めることを検討する。
取組項目	基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現	【柱1】 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	・千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画案を策定し、図書館協議会の了承を得た。 ・千葉市地域情報デジタルアーカイブに、千葉市の町名考及び千葉写真大観や、オーラルヒストリー10件を追加し、コンテンツを充実させた。	・地域資料等のデジタルアーカイブ化の推進に必要なデジタルアーキビストといった専門的人材の確保や、ボランティアとの市民協働体制の構築等、引き続き検討していく。
		【柱2】 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築	・レファレンスサービスの充実の一環として、中央図書館にオンラインデータベース(端末2台)を導入した。 ・各館において、様々な機関と連携しつつ、講座や企画展示等を実施した。おはなし会等の開催回数及び参加者数は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した点等が影響し、大幅に増加した。 ・市政だよりなどの広報紙に掲載するとともに、インターネットやSNSを通じた広報を実施し、図書館の利用を促進した。	・オンラインデータベースの利用拡大を図るため、中央図書館のみならず、全館的な活用について、検討していく。 ・講座や企画展示等の関係機関との連携数が前年度比減のため、関係機関との一層の連携を図る。 ・SNSの情報発信において、イベント等の事前周知のみならず、イベント等の様子や結果報告といった情報の発信を検討する。
		【柱3】 未来を担うこどもたちの読書環境の充実	・「児童(小学生)一人当たりの児童用図書の貸出冊数」が前年度比増となった。 ・学校等の要望を受け、新たな学校用セットの整備や、セット内容の見直しを行い、学校用団体貸出資料の充実を図った。 ・令和5年度に追加したオーラルヒストリーにおいて、読みが難しい漢字にフリガナをふり、学校の授業等で活用できるよう工夫した。	・「団体貸出による児童図書の提供数」が前年度比減であるが、引き続き団体貸出用資料の充実や、団体貸出のPRなど学校への働きかけを行っていく。 ・デジタルアーカイブ化した資料の学校の授業への活用に向け、学校のネットワーク環境や資料の充実度等の状況を踏まえつつ、検討を進めていく。
	基本目標2 新たな時代に 適応する運営の実現	【柱1】 誰もが利用しやすいサービス環境の実現	・美浜文化ホールに新たな返却ポストを設置した。 ・新花見川図書館のオープンに合わせ、自動貸出機などを設置した。また、若葉図書館の再整備において、自動貸出機、自動返却機、予約図書受取室の設置の方向性を示した。 ・図書館サービスの満足度は95.6%(図書館利用者アンケート)と高水準であった。	・図書館の再整備に合わせ、該当館への自動貸出機等の導入を検討し、利便性の向上を図っていく。
		【柱2】 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	・図書館職員の専門性を高める研修の実施や、県立中央図書館などが主催する外部の研修に積極的に参加した。 ・千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画において、デジタルアーカイブを推進するための人的基盤の整備に関する具体的な方向性を整理した。 ・施設の老朽化への対応として、若葉図書館の再整備の計画を取りまとめや、美浜図書館打瀬分館(空調設備)・稲毛図書館(自動火災報知設備)での改修工事等を行った。 ・図書資料費については、厳しい財政状況の中、可能な限り、寄付金受入などの外部資金含めて、予算を確保した。	・引き続き、司書資格やデジタルアーキビスト等、専門的な資格を有する職員の確保に努めていく。 ・施設の老朽化への対応は、引き続き財政部や建築部と協議しながら、適切な対応を行っていく。 ・図書資料費の大幅な増額が見込まれない中、利用者のニーズに沿った選書、寄贈本の積極的な受け入れ、電子書籍の一層の活用等により、図書館資料の充実を図っていく。
外部評価				
図書館サービスの基本的な取組事項			【図書館サービスの基本的な取組事項】 ・令和4年度と比べ、来館者数が増加した点は、関係者の努力の成果であると評価したい。その一方で、図書資料貸出点数・年間貸出利用率・市民一人当たりの資料貸出点数が減少しているため、貸出関連の目標をどのように設定していくのか、さらなる検討をお願いしたい。また、1年間に図書館を利用した市民の割合は減少傾向にあるため、新たな利用者層の獲得に向け、取り組んでほしい。 ・電子書籍については提供コンテンツ数、貸出点数共に順調に増えた点や、大規模校でのモデル実証実験がスタートした点は評価できる。今後も利用しやすい制度の整備や、学校教育に寄与するコンテンツの整備に力を入れてほしい。 ・図書資料費の大幅な増額が見込まれない中、寄贈による資料の受入の重要性は増していくと考えられるため、カウンター業務で人間関係が構築され、寄贈につながっている点は評価できる。また、電子書籍の充実により、地区図書館の図書資料費が減額されている事情は理解するが、電子書籍と紙の書籍のバランスを考慮しながら、図書館資料費の獲得に努めてほしい。	
取組項目	基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現	【柱1】 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	・千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画案の策定については、他の自治体の計画などを参考に、一から作り上げた点は大変評価できる。今後、計画に示した取組みをしっかりと進めていただきたい。 ・デジタルアーキビストなどの専門的人材の育成は時間のかかり、かつ、人材の発掘も容易ではないであろうが、資格取得後の適切な人材配置と業務の評価の取組を継続的に行っていただきたい。	
		【柱2】 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築	・オンラインデータベースの導入によってレファレンスサービスの充実が図られたことは評価できる。今後は、市内の各機関と連携して図書館の資料を使っただけでの就労支援等、図書館のレファレンスという枠を超えた市民への支援が出来るようになると良い。 ・SNSによる積極的な情報発信については評価できるが、イベント等の告知だけでなく、開催後の情報発信を行うと、より多くの人々から関心を寄せることができると考える。また、インターネットやSNSを利用した広報も重要だが、市民の目に付くところにポスターを貼る等、不特定多数の目に触れるような広報も検討してほしい。	
		【柱3】 未来を担うこどもたちの読書環境の充実	・子どものうちに読書習慣をつけることは非常に重要であり、小学校と連携した取組みや親子で参加出来るイベントを積極的に行った点は評価できる。図書館に関心を持つきっかけづくりとして、保護者を対象としたものも含めて、こうした取組みを継続して行ってほしい。 ・オーラルヒストリーの令和5年度追加分において、読みが難しい漢字にふりがなを付した点は評価できる。引き続き、デジタルアーカイブ化した資料の学校での活用が進むよう、学校と連携して活用方法を研究してほしい。	
	基本目標2 新たな時代に 適応する運営の実現	【柱1】 誰もが利用しやすいサービス環境の実現	・社会人にとって、開館時間外での予約図書受取サービスは非常にありがたく、その方向性を示した点は評価出来る。また、自動貸出機は図書館に広く普及してきており、職員の負担の軽減に資するため、利用の多い中央館でも早急に導入してほしい。 ・電子書籍について、限られた予算の中で、市民の中のどのような年代や層の利用を拡大していくかという視点を持って、今後のあり方を検討してほしい。 ・千葉市図書館利用アンケート調査における満足度がここ5年で一番高い評価を得られているのは関係者の努力の賜物だと思う。今後も継続的な努力を期待したい。	
		【柱2】 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	・正規職員の司書有資格者数は依然として低いので、司書有資格者の比率を上げるよう努めてほしい。また、千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画案において、デジタルアーキビストの養成は重要な柱と位置づけられると思うので、内部人材の育成に継続的に取り組んでいただきたい。 ・若葉図書館の再整備について、前例である花見川図書館の運営状況を踏まえて、様々な角度から検討のうえ、地区館としての機能と規模を維持できるように進めてほしい。また、今後、図書館の再整備を検討する際は、市内で図書館空白地域が出ないよう市民のアクセス等を考慮し、分館の配置や移動図書館のアクセスポイントの見直しを行ってほしい。	